

第三者意見

博士（総合政策）、サステナビリティ消費者会議代表

古谷 由紀子氏

プロフィール

- 博士（総合政策）、サステナビリティ消費者会議代表、中央大学経済研究所客員研究員（2019年～）。（一財）CSOネットワーク代表。
- 企業の品質、コンプライアンス、デジタルトラスト、サステナビリティ等委員会の社外委員。
- 消費者庁、総務省、経済産業省等の審議会や検討会に参加。
- 主な著作物には、
「消費者志向の経営戦略」芙蓉書房出版（2010年）、
「現代の消費者主権」芙蓉書房出版（2017年）、
「企業の消費者教育の意義と責任」日本経営倫理学会（2017年）、
「責任あるビジネス」における実践と課題—国際合意・基準からの考察—日本経営倫理学会（2020年）など



新型コロナウイルス感染症の拡大は昨年に引き続き、企業にも消費者にも大きな影響を及ぼし続けています。

貴グループでは、困難な環境変化を克服し、増益を確保し、

食品メーカーとしてフードロスや健康への寄与などSDGsに関わる取り組みを進展させてきました。

今年は90周年を迎え、貴グループがより発展していくために、コメントいたします。

安全・安心な商品を届けた90年

貴グループでは、消費者に安全・安心な商品を届けるために、研究所の開所、包装技術の特許取得、「クリーン&コールドシステム」の実現、HACCP導入、トレーサビリティシステムの構築、FSSC22000認証取得など、たゆまぬ努力を続けてこられました。今後も引き続き消費者に安全・安心を提供し、コロナ禍にあって食環境などの暮らしの変化に向き合う消費者に寄り添い、貴グループならではの取り組みを期待します。

シマダヤグループ行動規範に沿ったSDGsの取り組みの深化へ

さまざまな社会・環境課題に対して、今年もシマダヤグループ行動規範に沿った取り組みの紹介、更にはSDGsと関連付けた持続可能な社会への取り組みを示しています。

SDGsは2030年までの目標であり、その理念である「誰一人取り残さない」を実現するためには、大きな変革が必要となります。

まず、今、先進国や途上国を問わず、世界中の人々の安全を脅かす気候変動問題への積極的な対策を期待します。日本でも昨年、菅首相による2050年、カーボンニュートラル、脱炭素

社会を目指すことを宣言し、多くの企業が脱炭素社会に向けた取り組みを行っています。貴グループでも、これまでの食品ロス削減や省エネなどの地球環境問題への取り組みをもとに、カーボンニュートラルに向けた目標設定なども検討されてはいかがでしょうか。

また「働きやすい職場環境の確保」については、女性活躍推進や新型コロナ感染防止対策も進められていますが、「誰ひとり取り残さない」という人権尊重の理念をもとに、これまでの取り組みを深化させ、国際基準なども参考に多様性や個人を尊重した職場環境づくりを行っていくことを期待しています。

サステナビリティの観点でのガバナンス強化へ

現在、コーポレートガバナンス・コードの改定やESG投資の活発化など、ガバナンスには企業価値だけでなく、社会的価値にもつながるサステナビリティを意識した取り組みが求められています。貴グループでもサステナビリティの観点での体制構築や長期戦略、更にはリスク管理などガバナンスの強化を期待しています。

第三者意見を受けて

古谷様には、今年度も貴重なご意見を頂き厚く御礼申し上げます。2020年度は新型コロナウイルス感染症という今までに経験したことのない大変厳しい環境の中で事業活動を進めてまいりましたが、未だにコロナ禍の影響は厳しさを増している状況です。そのような状況下で当社グループは3年間の中期環境目的・目標の2年目の取り組みを進捗させてまいりました。そして2021年度の創業90周年の中期経営計画最終年度に合わせた中期環境目的・目標達成に努めております。消費者の皆様へ安全・安心で価値ある商品を提供し続けていくために、ステークホルダーの皆様へ支持される活動をしていきたいと思っております。次期中期環境目的・目標はSDGsへの取り組みを深化させるべく検討しており、ご意見の中にありますカーボンニュートラルに向けた目標設定やサステナビリティを意識した当社グループとしての取り組みについても検討していきたいと考えております。



シマダヤ株式会社
専務取締役 人事総務部長
(環境管理責任者)

相馬 紳一郎